

NEW カイブ

記憶をアーカイブしながら、新たなワンションを創ること

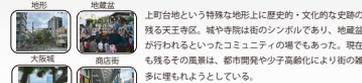


01 私たちが考える"NEXTのNEXT"

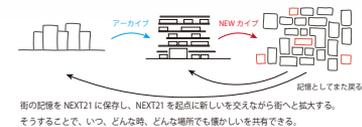
大切だけど、目に見えて、知らぬ間に忘れてしまうものがある。それを未来に残る建築が覚えていてくれたら一層かさをアーカイブする。帰る場所でありながらも、新たな出会いが生まれ続ける未来のためのニュー会館が見られるのではないだろうか。すべての人にとってのあの日、あの時、あの場所、その起点となるNEXTのNEXTを提案する。

02 プログラム

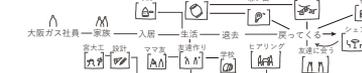
02-a あの日、あの時、あの場所で見えた風景(敷地のこと)



02-b 思い出を更新しながら残す"NEW カイブ"

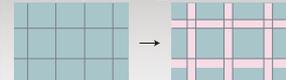


02-c 実験住宅としての仕組み

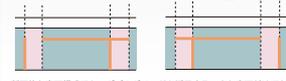


03 設計プロセス

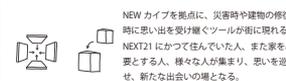
03-a 未来に思い出を残す型をつくる



03-b 思い出を受け継ぐツール(家具壁)



03-c 街に広がるNEW カイブ



04 思い出の共有の仕方

動く壁、動かない壁

ダブルラインによって動く壁、動かない壁が存在し、住民の個性が垣間見えながら、住み継ぎが行われる。

NEW カイブの連続性

NEW カイブの振る舞いが住居内と連続することで、1つ1つの住居、NEXTのNEXTと街の境界が曖昧になり、懐かしさは結ばれる。



住居同士の関係性

ダブルグリッド4本とその中心の空間を最小単位(単独世帯)とすることで、様々な家族形態に対応できる。それぞれのダブルラインが重なることで、思い出の共有が行われる。

緑の共有

住まない空間は緑化され、住民同士、街とを結ぶきっかけを与え、未来へと生きていく。

06 NEW カイブが創る風景



N00127

NEW カイブ

岩橋 知世(武庫川女子大学)

高橋 菜摘(武庫川女子大学大学院)

西村 伊織(武庫川女子大学大学院)

古川 花菜(武庫川女子大学大学院)